



祝祭日には



を掲げましょう

いまこそ集落創生

第11回 上中田地区



▲上中田地区内のふるさと壁画【上・下段ともに左から】「優しい時間と思い出の中田」（平成22年度）、「中田の情景～人々の暮らし営み・自然への祈り～」(平成25年度)、「中田の希望～子ども達に託す未来への願い～」(平成26年度)、「赤い屋根の学校」(平成27年度)、「獅子の舞うふるさと」(平成29年度)、「L∞P (ループ)」(平成30年度)

町中心部から北へ約7km、外沢川と並行する国道13号線沿いに集落を形成している上中田地区。現在は15世帯、50名程が暮らしています。「約10年前に主寝坂道路が開通してからは、地区の雰囲気もかなり変わった」と話すのは区長の佐藤義也さん。「まず地区内を通る車が激減した。地区住民にとって危険性は低くなったのかもしれないが、少し寂しい」と感慨深げに続けます。

その主寝坂道路のボックスカルバートを活用して、平成21年から取り組んでいるのが「ふるさと壁画」の制作。現在、中田地域には9作品が存在し、そのうち実に6作品が上中田内に描かれています。NPO法人なかだ倶楽部を紹介し、山形大学や東北芸術工科大学の学生と地区の子ども達などが協力して制作したため、交流が生まれました。「壁画制作のたびに地区内には新しい風が吹き込んできた。どれも素晴らしい作品なので、地域の振興に活かしていければ」と佐藤区長は意気込みます。一方、古くから伝わる弥彦神社の祭典は若連を中心に継承。毎年9月上旬には、五穀豊穡や商売繁昌、家内安全などを祈願し、獅子舞が地区内を練り歩きます。昨年は園児から高校生までの7名が囃子部隊として盛り上げました。

佐藤区長は、地区運営について「時代の流れとともに、変わったものは多くある。それは仕方ないこと。受け入れなければ取り残されてしまう。大切なのは地区に対する思いをみんなで共有していくことだと思う」と語ります。「確かに戸数は減っているし、人口も少ない。でも地区活動に活発な若者もいるし、子どもの数だってゼロではない」。前向きにそう続けていました。上中田地区はこれからも住民皆さんでつくられていきます。

金山町の人口は、5,546人 (12月末現在)

男性 2,700人 (-3)
女性 2,846人 (-5)
世帯数 1,764世帯

▼12月の異動
出生 2人
死亡 10人
転入 7人
転出 7人

編集 幸記

▼昨年12月の編集幸記で書いた「フォトマスタ―検定」ですが、おかげさまで合格通知が届きました。実力が伴っているかはさておき、やはり合格は嬉しいものです。大人になると「受験」の機会はありません。日々の勉強や試験当日の緊張感など、とても良い経験になりました。

▼いよいよ本格的な受験シーズンの到来。受験生の皆さんが存分に力を発揮できるよう祈っています。雪がとけだす頃には、たくさん笑顔を撮らせてくださいな。(つむ)